



人生をゆさぶる

Boldly Venture

永田円了

日常という惰性的時空のなかで、私たちは自分を埋没させ、記憶を平坦化させる。人は愉楽と安逸のなかで、自分が腐食し生の力を失っていくのに気づかない。自己喪失の過程のなかで自分に出会うには、何かゆさぶり、それも大胆な「人生のゆさぶり」が必要となるのである。

真のリスクは、リスクのない日常に潜む

ウナギの養殖では、稚魚のシラスはカナダから飛行機で輸入する。12時間の空輸のうちに、8割は死んで届けられる。しかし、水槽に稚魚の天敵であるナマズを放して運ぶとどうなるか？なんと、稚魚の2割はナマズに食べられるが、残りの8割は生き生きと日本に到着するという。

稚魚にとっては、ナマズは敵、しかし実際はこのリスクのお陰で、稚魚は元気であるのである。人生、いや魚生にも生きていくうえで、“ゆさぶり”が必要なのである。

米国シアトル郊外にあるショッピングセンターでのこと。5000台収容の駐車場をもつこのショッピングモール（Bellevue Square）、駐車場からモールに入る道路にあった横断歩道が取り外された。何故か。実は歩行者が車に跳ねられて亡くなる件数が、横断歩道できわめて多いというデータが米国で発表されたからである。

歩行者は、横断歩道という安心領域の中で惰性的に無防備になる。横断歩道をなくすることによって、リスク（ゆさぶり）が与えられ、歩行者は左右を確認し、自らを守りながら道路を横断することになる。ウナギの稚魚が、ナマズという“ゆさぶり”を意識した結果、生き生きをして日本に到着することと同じことなのである。



毎日が緊急事態

誕生は簡単。大変なのは“毎日生きること” Birth is easy. Life is hard. ロックバンド KISS のリーダー・ジーン・シモンズのコトバである。ホロコーストを生き延びた母親の影響を受けて育ったジーン、彼の言動には、この危機の時代を生き延びる知恵が満載である。1970年代のロック界を席卷し、その後46年にわたって悪魔のメイクで自他の人生をゆさぶり続けてきた人物、今年70歳を迎えたが衰える気配がない。



KISS AND MAKEUP - GENE SIMMONS

敢えて悪魔のキャラクターを演じることで、ウナギの稚魚に対するナマズのように、現実には危機、との気づきを促し続ける。日々ののちがあるだけで良い日。生きていてそれなりに健康ならば、それだけで勝者なんだ。生かされている限りは、上を目指す責任がある。母親の教えがジーンの生きる原動力として今も生きる。

<事例 DVD>

矢沢永吉 / 人生はゆさぶり、ゆさぶれば、面倒くさいに決まってるじゃん、
ロックバンド KISS ジーン・シモンズの知恵
ユヴァル・ノア・ハラリ/危機の時代、2つの選択
ジャック・アタリ/利他主義 Altruism が人類サバイバルの鍵
養老孟司 / 学ぶ = 自分が変わる、墓道を散歩、身体を動かす
映画「レナードの朝」Awakenings / ゆさぶりが終わった後の、二つの目覚め
歌・小椋佳/愛燦燦 人生って不思議なものですな

円了のホームページ: www.enryo.jp

